

のびるよ そだつよ

国立市立国立第五小学校 研究便り

校長 向井 美紀

NO. 2 令和3年6月17日

(編集：国立第五小学校 研究部)

この「のびるよ そだつよ」は、本校が進めている研究活動を保護者の皆様にご紹介するための研究便りです。研究内容や公開授業の日程、子供たちの様子等をホームページ上でお知らせしていきます。

6年1組 国語 「笑うから楽しい」 5月19日(水)



6年生は『笑うから楽しい』の説明文をあつかった研究授業を行いました。日常の中での楽しい経験を思い出しながら、『楽しいから笑うのか?』『笑うから楽しいのか?』『それとも?』とみんなで考えていきました。今回は、話し合いを通して自分の考えを深めていくというめあてで学習を行いました。まず、自分の主張に根拠をもたせる。そして、その主張をもとにしながら友達と意見交換を行う。初めは、友達の意見を聞くだけで終わってしまっていた子ども達も、学習を積み重ねていくうちに、友達の意見に対し

て「～という考えに納得しました。」「でも～ではないのですか。」など聞いて考えたことをもとにやり取りができるようになってきました。本時で、友達の考えや筆者の主張文を読むことで「〇〇さんの～という考えに納得しました。」「新しく～という考えに気が付けました。」など、当初もっていた自分の考えに、広がりや深まりが出てきたようです。

今後も、国語科の授業だけでなく、様々な場面で話し合うことで、多様な考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりして行ってほしいと思います。



2年2組 国語 「スイミー」 6月14日(月)



前の時間には、スイミーの兄弟たちが大きなまぐろに一口で飲み込まれてしまい、スイミーだけがただ一匹生き残った場面を学習しました。本時は海の素晴らしい生き物に出会うことで、悲しみに打ちひしがれていたスイミーがだんだん元気を取り戻していく場面です。

「海の生きものを見て、どうやって元気になったのだろう。」という学習のめあてを子供たちと考え、スイミーが出会った生きものたちを1つずつ丁寧に読み解いていきました。スイミーから見ると、にじ色のくらげはゼリーのような感じがしたり、いせえびが水中ブルドーザーみたいにごつごつと頑丈でかっよく見えたりという叙述のたとえ(比喩)を使った表現からスイミーの感じたことを想像しました。

みんなで見えない糸に引っ張られる魚になって動いてみたり、隣の友達と「スイミーはうなぎのしっぽから泳いだのか、頭から泳いだのか」を話し合ったりしながら、スイミーの元気になっていく理由を考えました。学習の最後には自分の読みを「スイミー日記」にまとめました。スイミーになりきった2年生は「6時間目も勉強する!」と言い出すほど、充実した言語活動に夢中になって取り組みました。

